

神奈川県立元石川高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 元石川高等学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和7年6月4日(水) 14時30分～16時30分
開催場所	元石川高等学校 会議室
出席者	《学校運営協議会委員》郷原正、金森剛、竹原和泉、辺見真智子、小池秀岳、大島武、井上正明、森由佳 《学校》内藤学、亀田壽美、芝垂希子、長妻令子、大塚秀光、萩原輝、齊藤高志、天野尚治
会議資料	別紙参照
	<p>1 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で希薄になったコミュニケーション力を養っていききたい ・職員の環境も整えていききたい <p>2 委員委嘱、出席者自己紹介</p> <p>3 会長、副会長選任</p> <p>会長:竹原和泉 副会長:辺見真智子</p> <p>4 議事</p> <p>まず始めに…学校運営協議会の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営基本方針の承認 ・生徒の助けとなる ・人事方針 <p>(1) 学校運営の基本方針について</p> <p>(2) 本年度の学校目標について</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元石川に入学した全生徒が元石川で卒業できるように。通学に困難を抱える生徒への支援、職員の意識改革も必要。 ・それぞれを認め合う。安心安全な教育の提供。 ・目の前の生徒への授業の最適化。 ・職員が安心して業務に取り組める環境づくり。 ・スローガンを改めて掲げ、元石川高校生としての誇りを持ってもらいたい。 ・スクール・ポリシーに基づいた指導ができるように教員にも周知していく。 ・生徒に丁寧に伝える指導方法の工夫も引き続き行っていく。 ・教育課程の見直しをしていく。 ・自己調整学習に関連し、生徒の資質能力向上に繋がる適切なICT利活用をする。 ・生徒への対応は丁寧だが、組織的に対応できるようにしていく。 ・3年間を見通した進路支援を作成。大学進学がゴールではない長期的な進路支援をする。 ・GREEN×EXPOに向けての活動を始めていく。外部連携を引き続き行う。 ・総合探究も通して地域連携を。 ・防災意識を高める。 ・生徒のための働き方改革。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識 ➡ 昨年度防災訓練の方法を変更。より良い防災訓練、防災意識の向上をどうしていくか検討中。 ・悩みを抱えている生徒 ➡ 生徒や保護者に寄り添いつつ、学校としてできること、できないことの線引き。 ・働き方改革 ➡ 会議が終わる時間、定時後の打ち合わせ、早朝の残務整理が事実としてある。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備 ➡ 老朽化に対する工事。優先順位の高いものから対応。雨漏り工事が最優先事項と思われる。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い教員が増加 ➡ 支援していく。 <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場環境 ➡ オフィス改善を県の取組として行っていく。

⑥

・行事に関する生徒支援 ➡ 生徒ができる部分とできない部分がある。今の生徒への適切なサポートをしていくために、対話をしていく。グループだけではなく、学校職員全体で行事を進めていくにはどうすべきか。

⑦

・教育課程 ➡ 新課程が1周し、さらに新課程を作成するにあたり多くの意見を頂いている。

・進路実績 ➡ 「行きたい学校」に行けるようになっている。早い時期に進路先を決めたい思いから、安易な進路選択をさせないようにしていく。

・講習 ➡ キャリア主体の進学講習、セーフティネットとしての補習を実施している。

⑧

・地域連携 ➡ 生徒の主体的な活動がまだ少ない。

・授業力向上 ➡ 目の前の生徒にどのような指導ができるのか、原点に帰る。「自立・協働・創発」を達成するための授業の展開。

・ICT ➡ 働き方改革も意識し、有効な活用方法を提案していく。

⑨

・講習 ➡ 進学講座昨年度よりスタート。

・進路の意識付け ➡ 2学年最後に第一志望宣言。外部講師を招いての進学ガイダンス。卒業生を招いての体験談講話。インターンシップの実施。「社会人に学ぶ」の実施。

(3) グループ熟議

○教育課程

・進路選択:なかなか自分の進路が見つけられない。勉強に対するモチベーションの上げ方。

→教員の経験を提供。学び合いの経験をさせる。基礎的な力を定着させた上でのグループ学習。先輩の話聞くことでモチベーションを上げていく。これらを統合して体系立ててキャリア教育としていく。

○生徒指導・支援・地域連携

・自転車ヘルメット着用:義務化のアナウンスをし、家庭に任せている。着用率は増えているが低い。立番はしている。

→免許制度。テストに合格しないと自転車通学の許可を出さない。意識をどう変えていくかが課題。

・ピアス:指導を続けている。

・地域連携:決まった人間(グループ)が動かざるを得ない。対生徒なので職員全体でできる雰囲気ができるとうまい。忙しすぎて難しい。ボランティア委員の役割明確化をしている。

・外部への地域連携情報発信:まだ窓口は開いていない。今年は夏祭りのボランティア、地区の防災訓練への参加を検討。

→今年はボランティア委員の意識を変えていくことから始めたので、これからの課題。部活動単位としてボランティア活動に参加させても良い。HP上でアピールする。こちらができることを載せる。一般の方はどこに頼めば良いか分からないので、窓口があると助かる。キャリア教育に繋がる。活動をする中で様々な自己発見がある。ボランティア活動することで生徒の自己肯定感を育む。部活見学Daysの他に活動できるものを。

・「創発」ができていない。本質的には「自立」ができていない?:ほとんどの生徒がやりたいことが決まっていない。「何とかなる」で先延ばしにしている。

→「何に興味があるか」「何が好きか」を問い続ける。色んなことを学べる、体験できる環境を用意し、体験から自信を付けさせる。それらが将来の職業に繋がるのではない。リスクがあるのも分かるが、前向きに対応を考えて欲しい。

・選択科目:理系、文系の選択しかできない状況はいかなるものか。

・AI活用

→学校として良い活用方法があるか。

○学校運営・学校管理

・防災

→自分たちで考えて行動させたい。各学年で系統立てて教育を行っていく。組織立てて外部にも広報していく。職員については、グループで担当を明確化し、学校で共有していく。生徒に色々な場面を想定して防災を考えさせていく。

・学校運営協議会

→スクールロイヤーを導入してみても。アドバイザーとして気軽に聞ける方がいると良い。

【まとめ】以上を参考に、学校運営をしていってほしい。